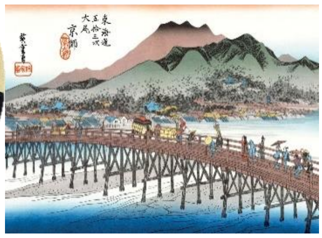
めあて

> 自分の歩はばを調べ、京都から東京まで歩いて何日かかるのか、単元で学習した考え方や計算の仕方を生かして求めよう。

発展課題３

　歌川広重という浮世絵師が「東海道五十三次」という、京都から東京へいく道中を浮世絵として描いています。今となっては京都から東京へ行くには、車や新幹線を使えば数時間で行くことができます。しかし、昔の人たちは、何日も歩いて東京（江戸）に行っていたのです。では、実際に何日間かけて歩いて行っていたのでしょうか。自分たちが〇秒間でどれだけのきょりを歩くことができるのかを調べ、京都から東京間(495.5 km)を何日で歩いて行けるのかを計算で求めてみましょう。

歌川広重（うたがわひろしげ）



東海道五十三次（とうかいどうごじゅうさんつぎ）「三条大橋」（京都）
（京都～東京間の道中（どうちゅう）を描いた浮世絵（うきよえ））

京都（三条大橋）から東京（日本橋）まで歩いて何日かかる？

＝10 秒間で何ｍ歩ける？

学習の条件

- 計算は自分で行う。
- ノートの例を参考に、何を求めているか、だれが見てもがわかるようにかく。

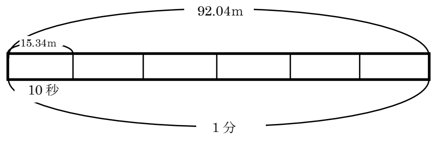
学習の手順（例）

①5 秒～30 秒間で歩けるきょりを
調べる。
②１分間で歩けるきょりを求める
③１時間で歩けるよりを求める
④１日に歩く時間を決め、１日で
歩けるきょりを求める
※一の位までのがい数に表す
⑤京都から東京まで（495.5 ㎞）
歩いて何日かかるか求める

ノートの例

①15.34m（10 秒間で歩けるきょり）
②15.34× ○＝92.04m　（１分間で歩けるきょり）
③92.04×○＝5522.4m（１時間で歩けるきょり）
5522.4m＝5.5224 ㎞
④5.5224×○＝33.1344（１日〇時間歩く）
33.1344 ㎞→約 33 ㎞（がい数にする）
⑤計算式＝15.0151・・・　答え　〇日かかる

図（テープ図や線分図など）



提出物（発展３）
何を求めているか、だれが見てもがわかるようにかく。